

## 倶多楽の火山活動解説資料（平成 22 年 12 月）

札幌管区気象台  
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。  
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

## ○ 活動概況

## ・ 噴煙及び熱活動（図 2～6）

日和山の噴煙の高さは火口縁上 50m 以下で、噴煙活動は低調に経過しました。

2007 年 5 月 3 日から大正地獄で発生している泥混じりの熱湯の噴出は、その後も消長を繰り返しながら継続しています（登別市による）。この現象は局所的なものであり、火山活動の活発化に直接つながるものではないと考えられます。

6 日に北海道開発局の協力により上空からの観測を実施しました。日和山では、やや活発な噴気活動が続いていました。大湯沼、地獄谷爆裂火口では弱い噴気活動が続いており、これまでの観測結果（前回：2010 年 2 月）と比べて噴気や火口の状況に変化はありませんでした。また、赤外熱映像装置<sup>1)</sup>による観測でも、各火口の地表面温度分布に変化はありませんでした。

## ・ 地震活動（図 6、表 1）

今期間、火山性地震や火山性微動は観測されませんでした。

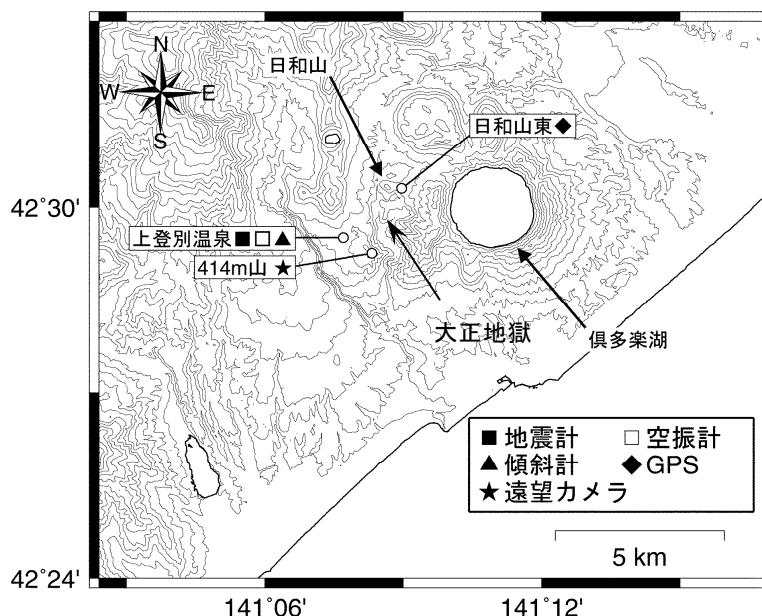


図 1 倶多楽 観測点配置図

1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 23 年 1 月分）は平成 23 年 2 月 8 日に発表する予定です。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 20 業使、第 385 号）。また、同院発行の『数値地図 25000（地図画像）』を複製しています（承認番号 平 20 業復、第 647 号）。

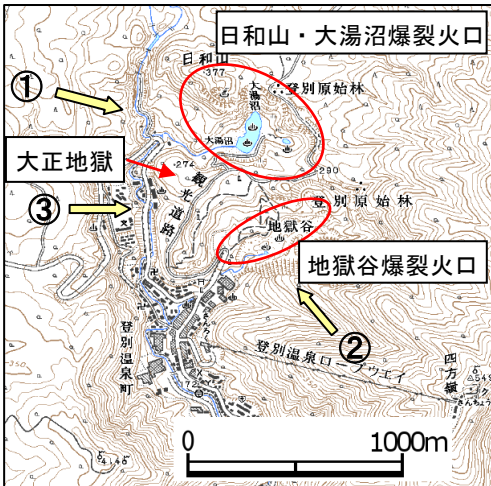


図2 倶多楽 火口周辺図  
(矢印は写真及び熱映像の撮影方向)

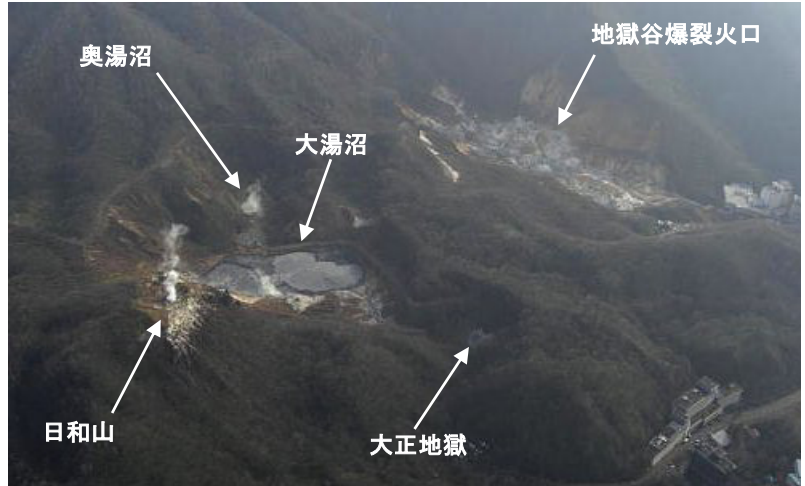


図3 倶多楽 北西側上空 (図2の①) から撮影した日火山周辺と地獄谷爆裂火口の状況

(12月6日撮影、北海道開発局の協力による) 10/12/06 11:07:44

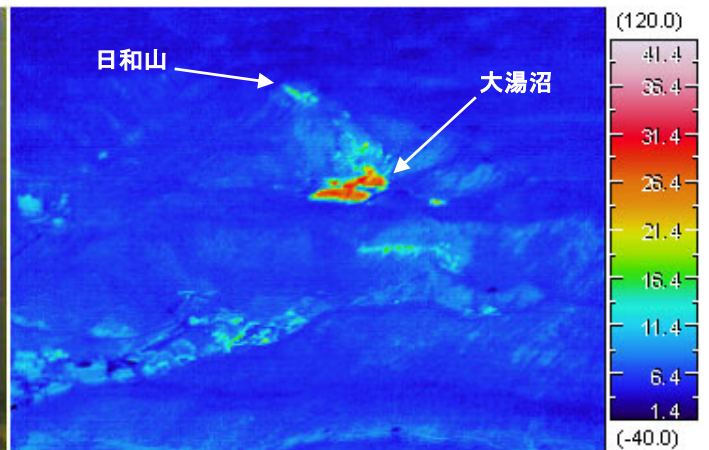


図4 倶多楽 南東側上空 (図1の②方向) から撮影した赤外熱映像装置<sup>1)</sup>による日火山・大湯沼爆裂火口周辺の地表面温度分布  
(12月6日撮影 北海道開発局の協力による)

10/12/06 11:09:16

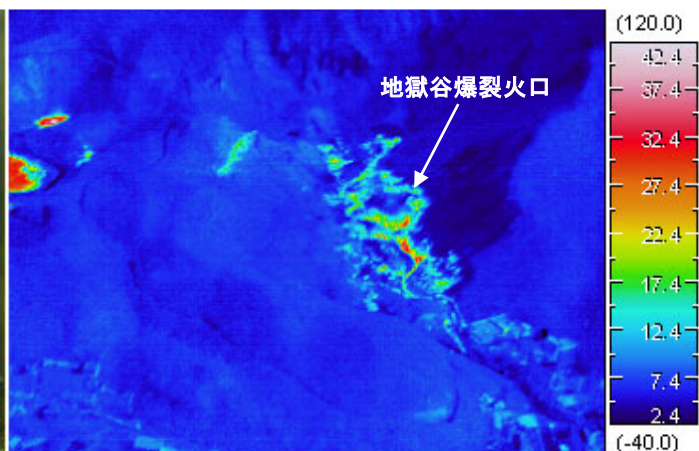


図5 倶多楽 西側上空 (図1の③方向) から撮影した赤外熱映像装置<sup>1)</sup>による地獄谷爆裂火口周辺の地表面温度分布  
(12月6日撮影 北海道開発局の協力による)

表 1 倶多楽 地震・微動の月回数

2010 年	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
地震回数	×	×	×	×	×	×	×	×	0	0	0	0
微動回数	×	×	×	×	×	×	×	×	0	0	0	0

\*地震観測点上登別は障害のため 2009 年 9 月 5 日から欠測、2010 年 8 月 31 日で廃止。

2010 年 9 月 1 日から上登別温泉で計数開始。

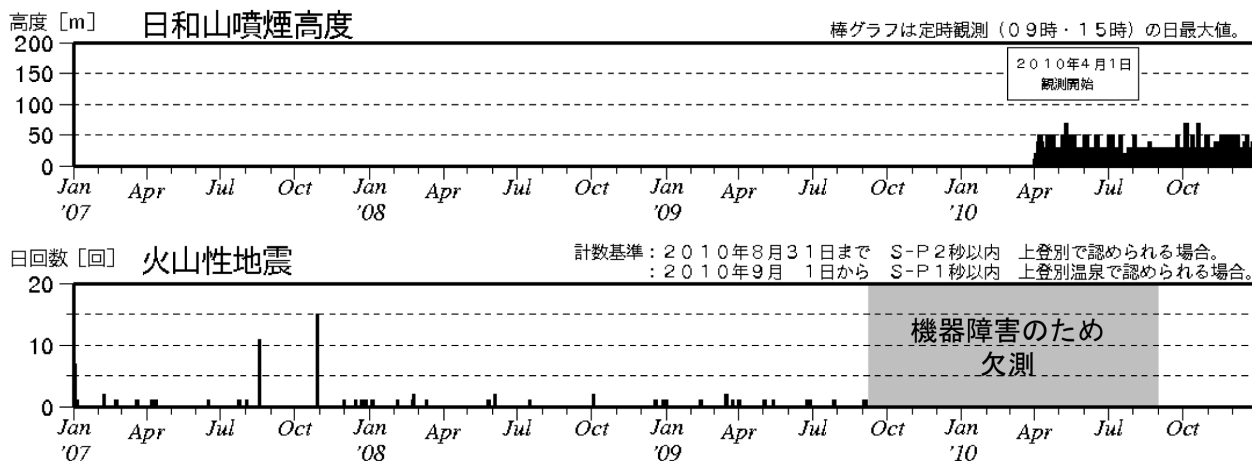


図 6 倶多楽 最近の火山活動経過図 (2007 年 1 月～2010 年 12 月)

図の灰色の期間は欠測